

はとタクシーの山田さん、ありがとう！

中部 北アルプス 高原川笠谷

飯田、福永、煤孫、大濱

【日時】 2013年8月13日（火）～15日（木）

【メンバー】 L飯田、福永、煤孫、大濱

北アの沢は初めてという3人のメンバーと楽しく遡行してきた。個人的に核心は、アプローチの林道と下山の笠新道と思っていたが実は入山時のタクシーの確保が核心となってしまった。今さらこんなことを言っても3人に申し訳ないが、笠谷は大滝はあるものの直登できる滝が少なく、イマイチ面白くない。笠ヶ岳周辺の沢に入るなら、やっぱり最初は金木戸川流域をオススメすると共に、稜線に近づいてからのガスは、全てガス男である私の責任です。展望をきかなくしてしまって、ゴメンナサイ m(_ _)m



【65m 大滝を高巻く】

8/13（火）晴れ

平湯からタクシーを使い、笠谷煙滝谷林道入り口（笠谷橋）へ移動。林道は、地形図上ではヒヤケ谷までしか伸びていなかったが、現在はその先の笠谷まで続く錫杖林道があるという。しかしながら、ヒヤケ谷からは藪漕ぎの世界。ススキやアザミをかき分けながら進む。途中でカモシカの子どもに出会った。人間が怖くないようで、こちらをじっと観察していた。アホっぽくてとても可愛いが、そんなんで大丈夫なのかと心配になる。



【洞窟の滝】

林道終点は、標高1260mの二俣上部。そこから左俣を遡行する。どうやら今年は水が少ないらしく、岩は水ゴケで滑る。水線の跡が20cmほど上に残っていた。大岩のゴロをちょっと歩くと、沢が左に折れるところで、早々に核心65m大滝に出た。思わず口をあぐり開けて、見えない落ち口を見上げる。正面のガレ場をロープを出して頂いて針葉樹帯まで上がり、そこからテープつきの踏みあとにしたがって斜上して

高巻く。何だかんだでこの滝を巻くのには1時間近くかかってしまった。

沢に戻ると、息つく暇もなく洞窟の滝が現れる。ひょんぐりの滝の後方には大小の岩室が幾つか口を開けていた。修行僧が籠っていきそうな感じ（こころ辺が前評判の「風情」かも）。滝の裏側を通り、左岸のルンゼを福永さんが先行する。ガレガレなので、他3人は下で待機。行けそうだとのことと、落石に注意しながら登った。



【予定外の 100m 級 4 段の滝】

巻き終わって少し歩くと、今度は大きな釜を持った25m滝。陽が当たるとエメラルド色で綺麗なので、しばし泳いで遊ばせてもらう。飯田リーダーがアッセンダーをどうしても使いたいというので、ここは福永さんがリード。右岸を灌木利用で登った。ここから40分程のゴーロ歩きで、目標の1480m二俣に着。ちょっと上がったところで素敵な場所があったので、ここで幕。でっかいタープの下で煤孫さんが大量に担いできて下さったビールを飲みながら楽しい宴会。夜にはカブトムシも飛んできて、夏休みだな～とシミジミ思った。（大濱）



【ロープは出さずお助いで登る】

8/14（水） 晴れのち曇り

核心を抜けている気の緩みからか7時近くの出発になってしまった。30分も歩かないうちに河原が開けた。右岸からは緩いナメ滝が流れ込んでいてとても素敵な場所だ。正面には2段10mの滝。この滝は右岸に踏み跡があり簡単に巻ける。



【ウサギの耳みたいな岩が目印】

ナメと巨岩と登れる滝を繰り返しながら徐々に高度をあげていたら、「おーい、こっちであってる？」と飯田さんから呼び止められる。青空に聳える岩峰の手前に100m

クラスの大滝が見えてきていた。当初、標高2000mを右俣に入り雷鳥岩の上部のクリヤ尾根の登山道にしようと思っていたが、気が付かない間に左俣に入ってきていたようだ。登山体系の遡行図を確認するも滝の位置などが違い、あまり参考にならない。目の前に迫る100mの大滝に引きつけられるようにそのまま左俣を進むことで満場一致。

大滝はフリーで登れ、大濱さんが積極的に取り付く。2番手以降はワンポイントのお助けも貰いながらついていく。高度感からか心地よい緊張感が走り爽快だ。その先の20m



【ガスガスの山頂】

の滝は流心沿い、左壁と途中までそれぞれ自由に登るが、やはり高度感があったのと最後がヌメっていたため、お助けを出して貰いながら慎重に越えた。水が枯れるとハイマツとガレの急斜面になる。兎の耳のような岩峰を目印にして高度をあげていく。足元のガレがひどくなり落石に細心の注意を払いながらまだかまだかと詰めるとついに南西尾根に出た。冬に使用されたであろう竹竿が立っており、登山道が近いことを

予感させた。

笠ヶ岳山頂には1時間弱で到着。ハイカーとお喋りをしたり、小屋でビールを買ったりと気持ちが解放されて、今宵はテント場の人となったのであった。(福永)

8/15 (木) 晴れ

ずいぶん昔の話だが、表銀座から縦走して笠ヶ岳に来たことがある。早立ちして笠ヶ岳山頂でご来光を眺め、その美しさに感動した。残念ながらフィルムが切れていて(デジカメ時代ではない!)全く写真が残っていない。次に笠ヶ岳に行くときには、絶対にご来光を撮影しようと思っていた。

ウン十年越しの思いを遂げようと早起きしたものの、曇ってしまってご来光の写真は撮れなかった。残念。また来ないといけない。

この日は下山するだけだ。テント場を出発して、ハイカー気分でも夏山縦走を楽しむ。飯田さんは笠新道の下りが核心と言っていたが、ほぼコースタイム通りに抜けて林道に出た。ここに水場があって休憩する。

林道を1時間弱歩いてバス停に出る。昨年からは工事が始まったようで、だいぶバス停付近の景色が変わっていた。昔(大昔!)はここに無料の温泉があって、下山後に入った記憶があるが、そんなものは影も形もなかった。諸行は無常だ。



【快適な一夜。お疲れさまでした!】

この日は飯田さんのログハウスに泊まった。信州大学在学中の飯田さんの長女が飛び入り参加してくれた。私の友人は、娘が中学生になると会話がなくなると言うが、飯田家は違うようだ。羨ましい。ログハウスで快適な一夜を過ごし、翌朝早朝に渋滞を避けて帰京した。(煤孫)

【グレード】3級



【行程】

- 8/13 笠谷橋(7:40)～入渓点(11:00/11:30)～65m滝(11:50/12:50)～洞窟の滝(13:00/13:40)～20m滝(13:45/14:10)～C1(15:40)
- 8/14 C1(6:50)～二俣P2000m(9:45/10:30)～南西尾根P2700(14:25)～笠ヶ岳(15:30/16:00)～C2(16:30)
- 8/15 笠ヶ岳山荘(6:30)～登山口(10:30-45)～バス停(11:30)

【地形図】 笠ヶ岳

